

令和4年3月15日

愛知大学総合郷土研究所・教育部美術博物館

とうしん りゅうもん ぎんぞうがん たち
国内で4例目！刀身に龍文が銀象嵌された大刀
 てらにし
—寺西1号墳シンポジウムで初公開—

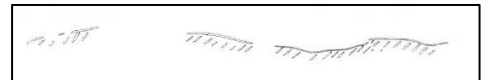
愛知大学総合郷土研究所は、昭和40年（1965）に同大学が発掘調査した寺西1号墳（現在は滅失、豊橋市石巻小野田町）の出土品の整理作業を行っています。

整理作業の一環として保存処理（サビ落としと破片の接合など）を行った大刀のひとつに、国内では類例がきわめて少ない銀象嵌の龍文（りゅうもん）と考えられる文様が発見されました。



大刀

(上：保存処理前、下：保存処理後)



龍と考えられる象嵌の文様

(上：現状画像、下：龍文トレース図)

※龍文は退化してあいまいな表現に

ポイント① 出土例が少ない、重要な銀象嵌装大刀（ぎんぞうがんそうたち）

龍文は、中国から朝鮮半島を伝わってもたらされたモチーフです。古墳時代に武器や馬具などの装飾として使用されました。象嵌とは、表面からたがねで彫り込み、そこに銀線などを埋め込んで表面を研磨した装飾技法のことです。

龍文が大刀に象嵌された例はきわめて少なく、国内では8例程度です。多くは刀装具（とうそうぐ）に象嵌されており、刀身（とうしん：大刀の本体）に象嵌した例は、今回の例を含めて**国内では4例しか確認されていません**。

格が高い権威の象徴として、有力豪族にヤマト政権から与えられた重要品です。

ポイント② 3/19（土）開催の「寺西1号墳シンポジウム」で大刀を初公開！

銀象嵌装大刀を展示するほか、保存処理・公開事業の報告書を無料配布します。

主 催：愛知大学総合郷土研究所・豊橋市教育委員会

題 名：「副葬品がかたる古墳文化—寺西1号墳シンポジウム—」

日 時：3月19日（土）13：00～16：45

会 場：豊橋市公会堂

参 加：無料、当日受付（先着300人まで）

※新型コロナウイルス感染防止対策のもとに行います

問合せ 愛知大学総合郷土研究所 文学部教授 廣瀬憲雄 ☎ 47-4160

教育部美術博物館文化財センター 所長 岩原 剛 ☎ 56-6060